

タイトル

『汐製菓会社の新作「サブレー」』

シーン：発端 | 汐の暴走（会議室）

場面：汐製菓会社の会議室。朝の会議が始まり、社員たちはざわつく中、汐が登場。ホワイトボードには「サブレー」号・桃とオレンジの闘争」と書かれている。

登場人物：

- ・ 汐（汐製菓会社社長）
- ・ 塩田（秘書）
- ・ 社員たち

汐（満面の笑みで、ホワイトボードを指差しながら）

「みんな！これを見てくれ！我が社の最新

作、その名も『桃とオレンジの闘争サブレ』
だ！」

社員△(困惑して小声で)

「…え？ 闘争？」

社員□(不安そうに)

「闘争…ってサブレに必要なんでしょうか

…？」

塩田(手を挙げて、真面目な表情で)

「社長、これは本当に…商品として成り立つ
のでしょうか？ 消費者の皆さんにとっては少
しインパクトが強すぎるような…」

汐(自信満々に、ホワイトボードを叩きなが
ら)

「インパクトこそが命なんだよ、塩田！ “甘さ
と酸っぱさのバトル”でお客様の心をわしづか
みにするのさ…！」

社員〇（こっそりと隣の社員に）

「…いや、わしづかみにするっていうか…ただ驚かせてるだけじゃ…」

社員〇（ちよつと興味を引かれた表情で）

「…社長、具体的にはどんな味になるんですか？」

汐（熱弁し始める）

「聞いて驚け！まず、口に入れた瞬間、桃の甘い香りがふわつと広がる！そしてその後すぐに、オレンジの酸味が突然襲ってくる！これで、甘さと酸味の激しいバトルを口の中で体験できるんだ！」

社員A、B、C（それぞれ顔をしかめながら）

「…そ、そんなサブレ食べたことない…」

塩田（ため息をつきながら）

「…いや、あるわけないですよね…そんな味のサブレ…」

社員A（もう一度確認するように）

「社長、つまり…その、あえて味を“ぶつける”
感じで？」

汐（嬉しそうに笑って）

「その通り！普通のスイーツじゃつまらないだ
ろ？我々が求めているのは、ありきたりな甘
さや柔らかさじゃなくて、予測できない新しい
味覚の体験だ！」

社員の（苦笑しながら、内心少しあきれて）

「…新しい…体験…というか…ちょっと危険な
体験じゃないかと…」

塩田（小声で社員たちに）

「皆さん、今回は少し、いや、かなり…挑戦的
な方向性ですけど…どうかついてきてください
…」

社員たち（それぞれの心の声）

「…ついていけるのかな…これ…」

シーン②：試作品作りと試食会（キッチン）

場面：汐製菓のキッチン。汐と塩田が試作品のサブレを焼き上げ、社員たちが集まって試食会が始まる。見た目は華やかだが、試食を始めた社員たちがさまざまなリアクションを見せる。

登場人物：

- ・ 汐
- ・ 塩田
- ・ 社員たち

塩田（おそろおそろ試作品を一口食べ、眉をしかめる）

「…う、これ…口の中で桃とオレンジが…本当に喧嘩してますね…」

汐（満面の笑みで、腕を組みながら）

「だろう？そこが狙いなんだよ！この衝突が、
“忘れられない味”を生み出してるんだ！」

社員A（恐る恐るサブレを口に運び、一瞬凍
りつく）

「…た、確かに…忘れられない…です…何とも
言い難い…」

社員B（サブレを口に入れてから驚愕の表
情）

「桃が来たと思ったら、次にオレンジが突撃し
てきて…戦場みたいだ…」

社員C（笑いをこらえつつ）

「…口の中で異文化交流してるって感じです
かね…」

塩田（汐に向かって心配そうに）

「社長、これは本当に商品として出せるんで
すか？」

汐（自信満々に）

「もちろんさ、塩田。こういう予測不可能な味が、今の時代には必要なんだ！」

社員○（口をすぼめながら呟く）

「これが…今の時代…」

社員△（不安げに）

「でも、これ…本当に売れるんでしょうか…？」

塩田（小声で呟きながら）

「…もしかしたら“売れる”というより“話題になる”方向かも…」

汐（満足そうに）

「話題になれば勝ちだよ、塩田！お客様が求めているのは“驚き”だ！」

シーン③：展示会への出発と機内練習
（飛行機内）

場面…パリでの展示会に向かう機内で、汐がプレゼンの練習を始め、塩田が不安げに見守っている。

登場人物…

・ 汐

・ 塩田

汐（隣の塩田に向かって、プレゼンの内容を確認しながら）

「さあ塩田、こう言うんだ。『皆さん！これが日本の最先端スイーツ、桃とオレンジの闘争サブレです！』ってな！」

塩田（顔をしかめて、小声で）

「社長、その“闘争”って…国際的には…うーん…伝わりますかね…？」

汐（得意げに笑って）

「フランスの人たちはセンスがあるからな！きつと“これぞアートだ”って思ってくれるさ！」

塩田（不安そうに心の中で）

「いや、アートというか…ただの味覚ショックな気が…」

汐（笑いながら）

「塩田、何も心配することはない。これは絶対にウケるから！」

塩田（ため息をつきながら心の声）

「…本当にウケるのはどっちかっていうと、その“闘争”の方なんだけど…」

シーン々…展示会での試食会（展示会場）

場面…国際展示会の会場。汐のブースには多

国籍の来場者が集まり、試食を始める。それ

ぞれ異なるリアクションが飛び交い、SNSで

も話題になり始める。

登場人物..

- ・ 汐
- ・ 塩田
- ・ フランス人
- ・ 韓国人
- ・ イタリア人
- ・ インド人
- ・ アメリカ人

フランス人（サブレを一口食べて驚きの表情）

「これは…まさに口の中の革命！桃とオレンジが激しく争っている！」

韓国人（真剣に試食しながら）

「え、何だこれは！桃が来たと思ったたら、すぐにオレンジが突撃してくるなんて…！これは新しい体験だ！」

イタリア人（サブレを食べながら、顔をしかめて）

「マエストロ、このサブレ、まるで戦場だ…甘さと酸っぱさのバトルが…！君の国のスイーツは本当に素晴らしい！」

インド人（興奮して）

「こんなサブレ、初めてだ！色々なスパイスを感じる…これ、もっと辛くしても面白いかも！」

アメリカ人（大きな口でサブレを食べながら）

「Wow! This is totally wild! I,ve never tasted anything like it! I,m gonna post about this on my Instagram right now!

#CrazyCookieBattle」

塩田（不安げに汐に）

「社長、皆さんの反応…これ、本当に大丈夫なんでしょうか…？」

汐（得意気に、笑顔で）

「これこそ、我が社の挑戦の成果だ！衝撃的な体験こそ、今の時代に求められているんだよ！」

フランス人（他の来場者とともに笑いながら）

「これを食べれば、誰もが食の冒険者になれるかもしれない！」

社員ロ（会話を聞きながら）

「もしかして、本当に人気が出るのかも…？」

塩田（心の声で）

「これが売れるとは思えないけど、確かに注目は集めている…」

シーン5：日本での話題と逆転ヒット（オ
フィス）

場面…汐製菓のオフィスに戻った汐と塩田。
展示会での成功がSNSで広まり、驚異的な
売上が発生している。

登場人物…

- ・ 汐
- ・ 塩田
- ・ 社員たち

塩田（パソコンを見ながら驚愕）

「社長、見てください！ネットで大騒ぎです！

『恐怖のサブレ』としてトレンド入りしてま
す！」

汐（満面の笑みで）

「ほら、だから言っただろう？これが我が社の
力だ！」

社員A（興奮気味に）

「これ、全国のスーパーに注文が殺到してます

よ！日本中のスイーツファンが興味津々みた
いです！」

社員 田（混乱しながら）

「“恐怖のサブレ”って、これ本当に大丈夫な
んでしょうか…？」

塩田（しみじみと）

「まさか本当にヒットするとは…！」

汐（自信に満ちた笑顔で）

「だからこそ挑戦する価値があったんだよ、塩
田！常識を打ち破ることで、新しい扉が開か
れる！」

社員 〇（驚きの表情で）

「社長、今度は何を作るんですか？もっと奇
抜なものが必要だと思えます！」

汐（得意げに）

「次は『トマトとココナッツ』の組み合わせで
行こうと思うー！」

塩田（呆れ顔で）

「…社長、それもまた斬新すぎやしませんか？ トマトとココナッツ…絶対におかしなことになりますそうですね…」

汐（豪快に笑って）

「大丈夫だ、塩田。世界が待っているのは、こういうサプライズさ！」

塩田（ため息をつきながら、心の中で）

「次の奇作は…どこまで暴走するのか…」

エピソード…次なる「怪作」への挑戦（オフイス）

場面…オフィスで新作の開発会議。汐は次なる奇抜なアイデアを発表し、社員たちが不安そうに見つめる。

登場人物…

- ・ 汐
 - ・ 塩田
 - ・ 社員たち
-

汐（満面の笑みで）

「皆、次のサブレのアイデアができた！今度は『カレー風味のサブレ』に挑戦しようと思
う！」

塩田（驚きの表情で）

「カレー風味の…サブレ？それもまた無謀な
挑戦じゃないですか？」

社員 A（興味津々に）

「確かに、カレーの香りがサブレに…？それは
新しいかもしれない！」

社員 B（不安げに）

「またしても“闘争”になりそうですけど、大
丈夫なんでしょうか？」

汐（自信満々に）

「大丈夫、みんな！私たちのモットーは“面白
きことも無き世を面白く”だからね！」

塩田（ため息をつきながら心の声）

「面白くなりすぎて、ついていけるかどうか…」

汐（楽観的に）

「新しい味覚の冒険を通じて、皆を楽しませ
よう！さあ、次の挑戦に向けて準備しよ

う！」

終了